

場所情報コードの利用技術に関する共同研究報告会

【開催日時】 6月23日(土) 13:30 ~ 15:30

【開催場所】 パシフィコ横浜アネックスホール F202

| | 研究者名 | 開始 | 終了 | 発表タイトル | 発表者(敬称略) |
|--------------------------------|-------------------------------|-------|-------|---|---------------------------------------|
| Session 1 : 場所情報コードとその運用管理について | | | | | |
| 1 | 国土地理院 | 13:30 | 13:40 | 新たな位置情報基盤 —位置情報点と場所情報コードについて— 【発表要旨】 国土地理院では、測位技術の高度化と位置情報サービスの普及を背景に、新たな位置情報基盤を担う「場所情報コード」の利活用について、平成22年9月から平成24年3月まで共同研究を実施した。本講演では、この共同研究の背景である新たな位置情報基盤の構想について紹介を行う。 | 国土地理院 測地部 山際 敦史 |
| 2 | (株)日立製作所 | 13:40 | 13:55 | 場所情報コードとその運用管理について —場所情報コードシステム概要— 【発表要旨】 これまでの共同研究の成果として、ここでは、場所情報コードシステムの概要を説明します。併せて、利用者がこのシステムを活用し、コード申請をする場合を例に、想定される課題とその対処案をご紹介します。 | (株)日立製作所 社会イノベーション・プロジェクト本部 菅原 敏 |
| Session 2 : 実証実験報告 | | | | | |
| 3 | (株)日立産機システム (実証実験WG幹事) | 14:00 | 14:10 | 場所情報コード実証実験の概要 【発表要旨】 東日本大震災による未曾有の災害の中で、地理空間情報が初動対応や復興支援で大いに活用された。我々は地理空間情報の整備に期待される場所情報コードの実証実験アプリケーションを、被災地復興支援や医療現場支援に絞込み検討した。場所情報コードの値はWeb地図や国土地理院電子基本図、屋内CADデータ、測量データなどを用いて決定し、場所情報コードの記憶媒体は13.56MHzのRFIDタグやIMES送信機を検討した。本講演では、場所情報コードの記憶媒体や記憶フォーマットの検討、緯度・経度座標の決定手法について報告する。 | (株)日立産機システム 川口 貴正 |
| 4 | 測位衛星技術(株) 学校法人 自治医科大学 | 14:10 | 14:30 | (未定) | |
| 5 | (株)リプロ 非営利活動法人 基盤地図情報活用研究会 | 14:30 | 14:45 | 復興情報杭について 【発表要旨】 被災地での実践的な場所情報コードの活用として、ICタグ入りの復興情報杭を大船渡市などに設置し、杭を基準点として、定期的に撮影記録し、防災教育などへの活用の実証と今後の課題を報告する。 | (株)リプロ 岡田 謙吾 |
| 6 | 国土地図(株) | 14:45 | 14:55 | 森林・山村域における場所情報コードの利用技術に関する実証 実験報告 【発表要旨】 山梨県小菅村でおこなったQRコード及び情報杭を利用した実証実験の報告。QRコードによる実証実験は、ハイキング道における道案内情報をQRコードで作成し道標に設置してハイカーに情報を提供するもの。情報杭の実証実験は、森林の経営情報や境界情報をICチップに納め、管理者が現地で容易に情報を確認することができる利用技術を報告。 | 国土地図(株) 藤沼 邦雄 |
| Session 3 : 今後に向けて | | | | | |
| 7 | (社)日本測量協会 | 15:00 | 15:10 | 場所情報コードの設置と管理における測量業界の今後の役割について 【発表要旨】 日本測量協会では測量のノウハウを活かし、新たな測量業界の事業として測地系に基づく屋内測位の手法開発とその成果の管理手法開発に取り組んでいます。長狭であったり、階層が存在したり、測位環境が複雑な中、どのように測量成果の品質や業務の経済性を確保していくか、将来に向けた課題を提起します。 | (社)日本測量協会 津留 宏介 |
| 8 | 慶應義塾大学大学院 | 15:10 | 15:15 | 場所情報コードの拡張コード : 詳細位置情報 【発表要旨】 場所情報コードの位置精度はおおよそ3メートルであるが、WG1で検討した場所情報コードの拡張コードの記述仕様を用いるとミリ以下の位置精度を表現することが出来、様々な高精度位置情報サービスに用いることが出来る。 | 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 春山 真一郎 |
| 9 | 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会 | 15:15 | 15:25 | 場所情報コードのLOD化の可能性 【発表要旨】 共同研究WG5では、屋内・屋外をつなぐ地理空間情報を利用したサービス(LBS)の創出に向けた検討を行ってきました。場所情報コードはURIとの親和性が高く、新たなLBSをイノベートできる可能性が高いことが明らかになりました。その結果について御報告します。 | 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会 坂下 哲也 |
| 10 | 国土地理院 | 15:25 | 15:30 | 場所情報コードの今後について 【発表要旨】 共同研究の成果を踏まえ、国土地理院では、コード発行・管理システムの構築及び場所情報コードの利用に関するガイドラインの策定を進めている。本発表会の最後に、国土地理院における現在の推進状況及び今後の展望について紹介を行う。 | 国土地理院 測地部 山際 敦史 |